

研究主題

「主体的・対話的で深い学びを通して
教科のねらいに迫る授業づくり」

～国語科「読むこと」の文学的な文章を通して～

第3学年 国語科学習指導案
単元名 物語の感想を書こう

「ちいちゃんのかげおくり」

■単元の目標

- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができる。(知(1)オ)
- 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。(思C(1)イ)
- 登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。(思C(1)エ)
- ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思C(1)オ)
- 言葉を大切に想像したり、考えたりして楽しみながら物語を読むことができるようにする。(学)

■読むことに関するねらい

構造と内容の把握

- ・登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉える。

精査・解釈

- ・登場人物の気持ちの変化について場面の移り変わり結び付けて想像する。
- ・情景について、登場人物の気持ちと結び付けて想像する。

考えの形成

- ・物語を読んで、理解したことを基に、一番心に残ったことを選び感想や考えを書く。

共有

- ・物語を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方や注目したところの違いに気付く。

児童の実態

本学級児童の多くは読書を好み、日常的に文章に触れており、自分なりに想像したり、感想をもったりすることができる。これまでの文学的文章を教材にした学習では、様々な視点から感想をもつ児童が多く、その幅の広さを生かして読み取り方の視点を広げる学習を行ってきた。

「きつつきの商売」を用いた学習では、物語の世界、中心人物の特徴や性格、登場人物の気持ちについて叙述を基に想像して考え、理解を深めることができた。「まいごのかぎ」を用いた学習では、初めの感想を基に「疑問を解決しよう」と教材に対する課題を作り、そのために読みを深める学習を行った。学習を通して、場面の様子を捉えるときに注目する要素として「時間」「場所」「気持ち」「行動」「話のまとめ」が共有できた。その際、場面の様子を表す言葉について正しく理解しようとする姿が見られたが、経験の多寡によって理解の正確さに大きな差が出ていた。

本単元でも、児童一人一人が叙述を根拠にして考えをもち、共有することで読みを深めることができるようにしたい。そして、理解したことを基に、感じたことや考えたことを感想としてまとめることが出来るようにしていく。

■言語活動

児童が物語を読んで理解したことに基づいてどのように感じたか言語化しやすいように、今回は「ちいちゃんのかげおくり」をどんな物語だと感じたか問う。ねらいを達成することができ、児童の意欲を高めさせ、自分の考えが深まったことを実感できる言語活動として、本単元では「感想交流カード」を設定する。

「感想交流カード」は、単元の初めと最後にどんな物語だと感じたか理由とともに書くものである。児童は、単元の最後に友達とカードを見せ合い、互いにそれについてどのように考えたのか、コメントを書く。また、課題に対する自分の考えを授業毎に記録する欄を設け、ポートフォリオとして活用することで、児童が最後の感想を書くときに一つ一つの授業のことを振り返り、考えを再構築しやすくなる。そして、実感をもって深まった感想をもつことが出来るようになる。また、教師も児童の考えがどのように変容し、最後の感想に至ったのか評価することも出来る。

■単元計画（全9時間）

第1次 学習課題の設定

- ① 文学的文章の学習について既習事項を想起する。
- ・題名から物語について予想する。
- ・物語を読み、どのような物語だと感じたかノートに書く。
- ② 友達との感じ方の違いや、観点の違いから学習課題を作る。
- ・学習課題について考えを深めた後に、改めてどのような物語だと感じたのか1つに絞って書くという目的意識をもつ。

取組①

児童の感想の違いから、必要感をもって学習課題を作り、それらについて考えた上で改めて物語に対する感想を書く言語活動を設定することで、学習意欲を高めさせる。

第2次 学習課題について考える

- ③④⑤ちいちゃんが経験した出来事とそのときのちいちゃんの気持ちを叙述を基に捉える。
- ⑥初めのかげおくりと最後のかげおくりを比較し、それぞれと結び付けてちいちゃんの変化を想像する。
- ⑦物語の最後に第5場面（平和な現代）があることの効果について考える。

取組①

単元の終末にある言語活動を意識させることで、各学習課題について多面的、多角的に考え、学んだことを積み重ねようとする意欲をもたせる。

取組②

考えを一面的なものから多面的なものに発展させることができるよう、発問について熟考し精選する。

取組③

児童が思考しやすくなるよう、対話の形式を児童に選択させる。また、各対話のねらいについて児童に問い、学びを焦点化させる。

第3次 考えの形成・共有

- ⑧学習課題について考え、理解したことを基に、改めてどのような物語だと感じたか書く。
- ⑨物語を読んで感じたことを友達と共有し、互いの考えについてどのように感じたか伝え合う。

取組①

「感想交流カード」に記録してある各学習課題に対する自分の考えを見直しながら物語に対する最終的な感想をまとめることができるように助言する。

■学習指導過程（2/9時間）

1 本時の見通しをもつ。

- 前時を振り返り、自分たちの書いた感想の違いから学習課題を作り、「ちいちゃんのかげおくり」の学習計画を立てるという見通しをもつ。

取組①

児童の感想をまとめたことを伝え、知りたい聞いてみたいという気持ちをもたせる。

- ・児童の感想が多様であったことを伝え、自分の感想と友達の感想の共通点や相違点を確認したいという意欲を引き出す。

2 学習計画を立てる。

- 自分たちの感想を読み、共通点や相違点を見出す。
- 話を聞いてみたい友達を選び、質問したり、感想を伝え合ったりする。
- 友達の考えのよさを共有し、物語について読み深めたいという意欲を高めさせ、すべての学習課題について考えを深めた後に改めて物語に対する感想を書くことを活動の目標として設定する。
- 考えたい観点を話し合い学習課題を作る。
- 考えていく順番を考える。
- 各学習課題についてどのような学びをすれば目標に結びつくかを考える。
- 学習の終わりに自分の考えがどのようになるか予想し、「感想交流カード」について知る。

取組③

まず読む（資料との対話）、次に気になった友達との対話、という活動を児童が何のために行うのかを問い、明らかにする。

取組①

ゴールイメージを持たせることで、学習課題を必要感や目的意識を明らかにして作ることができるようにする。

取組①

出し合った学習課題について、なぜクラスの皆と考えたいのかを問い、必要感を明確にもたせる。

- ・感想をまとめた紙には矢印やサイドライン、囲みなど、自由に書きこみをしてよいことを伝え、自分の感想と友達の感想の共通点や相違点、つながりを意識しやすいようにする。
- ・交流の目的を明確にすることで、ねらいをもって友達の考えを聞くことができるようにする。
- ・学習課題を短冊に書き、順序を入れ替えたり、今後の学習で提示したりできるようにする。
- ・出し合った学習課題について、学習する意味を問い、確かめる。
- ◇友達の感想を受けて、様々な視点から物語を読み直し、自分の考えを深めよう、広げようとしている。（ノート、発言、感想をまとめた紙）

3 本時の学習を振り返る。

- 学習計画を確かめ、目標に結び付くかどうかを確認する。
- 次時の学習について確認する。

- ・「感想交流カード」の使い方について確認し、学習計画と照らし合わせることで、今後の学習と目標へのイメージを高めさせる。

・・・学習内容と活動

・・・指導、支援

◇ 評価

教師が主体的・対話的で深い学びの視点を明確にもち、児童に三つの資質・能力を育むために授業改善を行っていけば、教科のねらいに迫ることができるであろう。

主体的・対話的で深い学びの視点

- ① 児童が学習のゴールイメージをもち、各学習課題に必要な感をもっている。
- ② 児童が必要感をもって対話の形を選択している。
- ③ 比較・関連付けてより深く理解している。

本時における具体的な児童の姿

- ① 学習のゴールを意識し、「感想交流カード」に毎時間に考えたことをまとめている。
- ② 教材との対話、友達との対話、自己との対話について必要感をもって選び、学習のために活用できている。
- ③ 自分の考えをより多面的なものに発展させている。

三つの資質・能力を育むための授業改善の取組

《学習計画の工夫》

- ① 初発から学習課題を作り、ゴールイメージとして言語活動を設定する。
 - ・教師は初発の感想を学習の観点になり得るものに分類し、児童の関心や感想の中心がどこにあるのかを分析する。それを、児童にも提示することで、児童は互いの考えの相違点や共通点、相違点の中にある納得のいく点を見出すことができる。友達の考えに触れ、共感やずれを実感した児童は「ちいちゃんのかげおくり」について友達と一緒にもっと詳細に読んで、想像したい、理解したいといった意欲をもつことが想定される。そのような意欲、目的意識をもった上で、読み深めたい観点について教師と児童が話し合っって学習課題を作り、最後に考えが深まった実感をもって改めて感想を書くという言語活動を設定する。

《具体的な学習活動の想定》

- ② 発問の精選
 - ・学習課題を解決するために教師から発問を行い、考えさせることで一面的な読みが多面的な読みとなり、思考力、判断力、表現力等を育てることができると考える。3年生は、論理的思考力や豊かな想像力につながる読みの学習の仕方を学ぶ段階であると考え。
 - ・発問は、国語科のねらいを達成できること、児童が考えたいと意欲を高められること、多面的、多角的に考える必要があること、の3つの条件を満たすように設定する。発問を通して学習課題について考える中で、多様な考え方に触れて感想や考えを再構築する。そのことにより、多くの叙述に基づいた思考、判断、表現になると考える。

《学習形態の工夫》

- ③ 児童が思考しやすくなる対話の形式の工夫
 - ・第二次の全ての授業で、発問に対して自分の考えをもつ。(文章を読み、ノートに書く) →少人数の友達と考えを伝え合う。(説明する、聞く、質問する) →全体で共有する。(説明する、聞く、質問する、文章を読む、分類する、比較する、関連付ける、必要なことを記録する) →考えを再構築する。(ノートに書く)」という言語活動の展開を軸にする。こういった学習活動を円滑に行うため、年間を通して各教科の学習で学んだ考え方や学習の仕方を掲示し、日々の学習で生かすように指導し、児童にそれらを活用して学ぶことのよさを実感させる。